

特定非営利活動法人びーのびーの2018年度事業報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

第1 1年を振り返って

横浜市において「子ども子育て支援事業計画策定のための3万人ニーズ調査」が行われ、4年に1回の大規模調査の結果でも前回と変わらず、子どもの世話の体験の有無については75%の人が第一子を持つまで無かったという結果が明らかになった。

びーのびーのは全事業あげて常に学生と子どもとの日常的な関わりを大事にしてきた。2018年度は企画室が、おやこの広場びーのびーのひろばでトライアルに実施してきた「学生ボランティアによる家庭への派遣事業 わくわく子育てサポーター」事業（2003～2007年）を追従する形で、神奈川県基金21助成金による「家族シュミレーション」事業を実施。子どもを持たない就労男女が子育て真っ最中の家庭を体験し、疑似家族的な体験を企業や有識者の応援のもとモデル的に行った。企業の働き方改革、年金基礎モデル家庭の在り方の見直し等々から、必然的に子どもを産み育てることの価値観が大きく変容している。こうした背景を受け、産前からの子どもを持つことへの肯定的な意識醸成への取組みはより創意工夫が求められることを実感した1年だった。

また、主に子育て支援拠点どろっぷで実施した、年間38回にも及ぶ両親教室や子育てサポートシステムなどを通じて感じた、1歩踏み込んだ家事支援などができる事業の必要性から、12月より産前産後ヘルパー派遣事業の申請準備を始めた。先行実施団体見学視察、利用当事者家庭へのヒヤリング、ヘルパー候補者への周知と募集、オリエンテーションなどを行い、新年度からのスタートに向けてプロジェクトを組んで進めた。

一方で各拠点を利用する層にはひとり親家庭や外国につながる家庭の利用数も確実に増えてきていることから、多様性に対応していくための方策は法人内だけで対応できることは少なく、今まで築いてきたネットワークと協働協業しながらの課題解決への取組みがより求められてくることも実感。1つ1つの事業がその場の運営や活動に終始することなく、外との関係性に目を向け、協働姿勢、開くマインドを持って臨み、他者とのコーディネート力を全構成員が持ち合うことをここで確認したい。

他方でそれぞれの現場ごとになっている、とくに安全確保のための方針やリスクマネジメントのための指針、マニュアルについては改めて見直し強化していくことは次年度に繰り越す課題である。

2018年度認定・認証歴

| | |
|---------|---------------------------|
| 12月 | 横浜市所管 認定特定非営利活動法人 認定 |
| 2019年1月 | 横浜健康経営認証 2019 クラスA 事業所 認証 |
| 1月 | 2018年度 よこはまグッドバランス賞 認定 |

第2 事業内容

1. 子育て支援施設の運営

① 「おやこの広場びーのびーの（菊名ひろば）」

（横浜市子ども青少年局委託事業 親と子のつどいの広場事業）

（1）基本データ

| | |
|--------|--|
| ① 対象 | 主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者 |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区篠原北1-2-18 |
| ③ 開催日時 | 月曜～金曜 9:30～15:30 第3水曜 12:00～15:30 隔月第3土曜 10:00～15:30 |
| ④ 従業員数 | 9名 |
| ⑤ 事業概要 | ・子育て親子の交流、集いの場の提供 ・産前からの切れ目のない支援 ・子育てに関する相談の実施 ・地域子育て関連情報の収集及び提供 ・子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ・一時預かりの実施 |

(2) 報告

1) 共に育ちあい育てあうひろば

会員同士、信頼関係を結び、声をかけあいながら子ども達の成長を共に見守り合う、緩やかなひろばの雰囲気作りができた。

ボランティアと定期的に様々なイベントを開催し、ひろばと利用者との交流を図った。

土曜ひろば開館を年4回実施。毎月1回以上のブログ・Facebook・広報紙などの更新。

2) 当事者性を大切に

ひろばの様子などを気楽に話せる会を月1回行い、親子が今やってみたいことを実現できるようサポートを行った。

今の子育て事情や感覚を知ることができるように、親子に寄り添いきめ細やかなニーズを拾い、安心して楽しく過ごせる場所を目指した。

3) 座談会

0才児親子向けの座談会を年9回実施。

利用者の声を聞き、さまざまなテーマ（おむつはずれ・離乳食など）で、年5回座談会を実施。広報紙に報告を掲載。

4) 産前から切れ目のない支援

地域の両親教室にひろばスタッフとして4回参加。

マタニティー向けプログラム（マタニティー・ソーイング：スタイ作り）を土曜日4回実施。

5) ひろばと地域を結び

毎月1回公園で外遊びを実施し、地域に向けて開かれた会を行った。地域活動連絡会を開き、活動報告、交流を図った。

6) 一時預かり

週1回一時預かり専任スタッフを導入。安定したスタッフ体制を組み、ひろばらしい一時預かりを行った。

② 港北区地域子育て支援拠点どろっぴ

(港北区地域子育て支援拠点委託事業)

(1) 基本データ

| | どろっぴ | どろっぴサテライト |
|--------|---|----------------|
| ① 対象 | 主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者 | |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区大倉山3-57-3 | 横浜市港北区綱島東3-1-7 |
| ③ 開催日時 | 火曜～土曜 9:30～16:00（祝日と年末年始及び特別休館日を除く） | |
| ④ 従業員数 | 18名 | 9名 |
| ⑤ 事業概要 | ・ 親子の居場所 ・ 子育て相談 | |
| | ・ 子育てサポートシステム ・ 利用者支援事業 ・ 人材育成 ・ ネットワーク ・ 情報収集、提供 | ・ 利用者支援事業 |

(2) 報告

1) 地域版両親教室・妊娠期プログラムをひろば、専門職・他機関と協働で取り組んできたことで、事業を一体となって取り組んできたという連帯感が強まった。当事者のよる一元化された周知媒体による効果も大きく、妊娠期から子育て家庭を支えていく人材の層を幅広く捉えていくことの共通認識もできた。

2) どろっぴ・サテライトともに、近隣小・中学校との連携は継続しており、学童期の子ども達の出入りが定着した。大綱中学校の触れ合い体験の取組実例がもととなり、市・区域にも少しずつ広がりが生まれている。

3) 子育てアプリの円滑活用と機能進化させていくとともに、18区の情報担当者会議を市域での情報発信の在り方を考え、拡げていく方向性を打ち出せた。

4) 子育てサポートシステムのサテライトでの機能拡充と提供会員増大に向けて取組、サテライトでのフレキシブルな対応、個別説明を行う機会を充実させ、提供・両方会員は、44名増とすることができた。

5) 利用者の自主活動、助け合い保育等のプログラムを通し、「こどもがまんなかみんなで子育て」を体感し、利用者とはひろば、利用者親子同士の繋がりが深めていくことができた。

2. 子育て支援に関する事業

預かり保育「まんまーる」

(1) 基本データ

| | まんまーる大倉山 | まんまーる篠原 |
|--------|---|-----------------------------------|
| ① 対象 | おおむね2～3歳 (各曜日:8名、一時預かり:各日2名) | おおむね2～3歳 (火曜・木曜:6名、一時預かり:各日2名) |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区大倉山3-3-3 磯部マンション205 | 横浜市港北区篠原町1077 COCOしのはら内 |
| ③ 開催日時 | 月曜～金曜 9:30～13:00 | 火曜・木曜 9:30～13:00 |
| ④ 従業員数 | 9名 | |
| ⑤ 事業概要 | 幼稚園・保育園に入園前の子ども(2歳・3歳)を対象としたグループ保育。 登録制。 | |

(2) 報告

- 地域福祉交流スペース「COCOしのはら」においてまんまーる篠原の認知度を高めていくことを目標に、月に1度「遊ぼうデー」を行った。新しい親子と共に、現利用者親子も登録曜日以外の遊ぶ機会としての喜んでいただけた。9月より「おはなし会」をスタートすると0～1歳児の親子が訪れ、次年度のまんまーるへのつながりを期待している。
- 初めて親から離れて過ごす子ども達の気持ちと、保護者の不安な気持ちを受け止め、安心して過ごせるよう留意した。特に3～4月に出産し入会される方が数人いたので、親子共に丁寧に受け止めるよう配慮した。
- 保護者同士がつながりを持ち、共に支え合いながら地域での子育てが楽しめるよう心掛けた。一時預かり利用者が増え、グループ保育のレギュラー親子とも自然なかかわりが見られた。
【大倉山】一時預かりの利用者：月平均12名。延長保育の利用者：月平均7名/利用時間：月平均9.5H。
【篠原】一時預かりの利用者：月平均5名。延長保育の利用者：月平均2名/利用時間：1.3H。
また、OB会メンバーの元保護者2名が次年度スタッフになることが決まり、理想的な循環が生まれている。
- グループ保育後の延長保育や緊急時の預かり・職業復帰のための準備や就学などへの支援として地域に役立つ保育を模索している中、仕事のために一時預かりを利用される方や海外から帰国し居場所を求めて来てくれた方が数人いた。HPなどを通して必要な方へ情報が届いていることを感じた。
- 法人内の他事業(拠点)との連携を高めて、子育て支援により役立つ場を目標としている。
菊名ひろばより紹介された配慮の必要なお子さんの様子を共有しながら見守ることができた。

3. 子育てに関する地域の情報発信

(1) 基本データ

| | |
|--------|---|
| ① 対象 | 子育て世帯 |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103 |
| ③ 業務時間 | 月曜～金曜 9:00～17:30 |
| ④ 従業員数 | 6名 |
| ⑤ 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・出版・制作・企画事業 <ul style="list-style-type: none"> (ア)「びーのびーの幼稚園・保育園ガイド」の発行・販売 (イ)制作・企画 <ul style="list-style-type: none"> 各種制作(チラシ、冊子、パンフレット、HPなど)、 イベント実施 (ウ)港北区子育て応援マップ紙版ココマップ (エ)書籍販売 ・インターネット事業 <ul style="list-style-type: none"> (ア)港北区子育て応援マップココマップ (ウェブサイトの編集・制作・運営) |

| | |
|--|---|
| | (イ) トレッサ横浜HP内「とれおんパーク」ブログ記事制作 トレッサ横浜委託事業 ・事務請負・コンサルティング事業 (ア) 子どもと保育総合研究所事務 (イ) 子育てタクシー (ウ) 子どもと家族支援研究センター事務 |
|--|---|

(2) 報告

- 1) 幼稚園・保育園ガイドにおいて、園探し当事者や先輩ママ・パパが参加する『ビーのビーの幼稚園・保育園ガイド』意見交換会を3回開催。当事者がほしい情報をわかりやすく伝える“特別付録”ができた。
- 2) 紙版ココマップ制作において、子育て中のママの意見を取り入れ、ニーズに合ったものを作ることができた。サイト版ココマップにおいては毎月の編集会議とMLにて、活発な意見交換を行った。特に特集記事制作においては会議で何度も議論を重ね、当事者目線の記事をつくることができた。
- 3) トレッサブログにおいて、主催イベントやテナントの紹介記事を発信することにより、トレッサ利用機会拡大に貢献できた。また、イベントではトレッサのテナント、鶴見区地域子育て支援拠点、川崎市のNPO法人、企業とのコラボ企画を行うことにより、他団体・企業との連携を深めることができた。
- 4) 子どもと保育総合研究所において、マネーリンクによる入金管理を始めた。次年度以降、更なる業務効率化につながる。
- 5) 子育てタクシーを担当するドライバーから直接意見を聞く機会（サンタクシー朝礼、子育てタクシー協会研修会参加）をもつことができ、現場の要望を聞くことができた。今年度から子育てタクシー協会の理事としての事業参加を行うようになり、研修プログラムの構築、事業PRに関する企画から参画、公共交通に関する研修などにも参加し、交流の機会を広げられた。
- 6) 学生コーディネートにおいて、LINE@でアカウントを作成し、インターン・実習生・夏の学生ボランティアの学生たちに友だち登録をしてもらい、イベントなどのお手伝い募集をLINE@で発信した。友だち数80名。
- 7) 法人事務所移転により、企画室へ地域からの来客や親子の訪問が増えた。地域の情報提供・情報交換の場となった。（来室者約50名/月）
- 8) 前年に引き続き、横浜市子育て応援事業「ハマハグ」の地域における広報・周知受託。主に港北区内の店舗・施設の「ハマハグ」協賛の働きかけ及び登録を行なった。協賛の働きかけ及び登録は、最大目標数20に達した。
- 9) 2018年11月16日～18日に開催された国際校庭園庭連合2018年日本大会（横浜）の事務局業務を受託。大会参加者数245名（内、海外参加者37名）。大会を滞りなく遂行できたことにより、今後事務局業務を受託する際のとてもよい経験となった。
 ※企画室サポートメンバーチーム（アフロ）を立ち上げ、4名のアフロメンバーが企画室会議及び企画室業務に積極的に参加。既存のやり方・考え方にとらわれない意見を事業に取り入れることができた。

4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

(1) 基本データ

| | |
|--------|--|
| ① 対象 | 子育て世帯 |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103 |
| ③ 業務時間 | 月曜～金曜 9:00～17:30 |
| ④ 従業員数 | 10名 |
| ⑤ 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・取材、見学対応 ・外部講演会講師、原稿作成依頼等 ・外部委員会出席等 ・学生実習受入れ ・ビーのビーの通信 ・絵本の会 ・助成金・企画事業 |

(2) 報告

1) 取材、見学対応

現場視察会を開催した。法人が運営する子育て支援施設（おやこの広場びーのびーの、港北区地域子育て支援拠点どろっぴ）、地域福祉・交流スペース（COCO しのはら）で施設見学、説明を行い、事業の啓発・情報交換の場とすることができた。また、実践者のための実務体験の場として活用されている。

2) 外部講演会講師、原稿作成依頼等

「あそびから学びが生まれる動的環境デザイン」原稿作成および事例発表

「地球人」少子化対策事例原稿作成

日独少年指導者セミナー講師、シニアのための保育補助者養成講習研修講師、子ども子育て支援推進調査研究

西東京市保育園庁内研修講師、西区一時保育者向け研修講師、蕨市管理監督者研修講師

全国障害者総合福祉センター実施研修講師

3) 外部委員会出席等

ひっとプラン港北、住友生命保険「未来を強くする子育てプロジェクト」選考、指定管理者選定評価委員会等。

4) 学生実習受入れ

アクションポート横浜のインターン 6 名、玉川大学インターンシップ 12 名、その他学生の実習（東京慈恵会医科大学 2 名、明治学院大学 2 名、桐蔭横浜大学 5 名、横浜創英大学 21 名、横浜実践看護専門学校 6 名）を受け入れたことで受入事業間で情報を共有したことで事業間連携が強化された。

5) びーのびーの通信

2018 年度は年 9 回（通常号 6 回、合併号 3 回）発行。

おやこの広場びーのびーのとの連携が取れ、テーマ案や利用者の声が拾いやすくなり、原稿に活かされた。

200 号記念紙（2018 年 4・5 月合併号）の発行。

6) 絵本の会

おやこの広場びーのびーので活動。（おはなし会/隔月・バザー参加）

バザー売り上げ金で紙芝居舞台と絵本を購入し、広場に寄贈。

「びーのびーの通信」に絵本紹介執筆。定例会を実施。（9 月・3 月）

7) 助成金・企画事業

(ア) ～みんなで夕食の会～『たべ～る“ば”大倉山』（横浜市社会福祉協議会よこはま ふれあい助成金事業）

「のびのび月曜日」の参加者を中心に学童期に入った家庭を対象とし、年 12 回開催、参加家庭は 17 家庭。2 グループに分けて隔月 1 回開催。年 2 回は両グループ合同開催とし、2 月には柴田愛子先生を招き語り合う場を設けた。どろっぴを会場とし、S ボランティア、学生ボランティアの協力により実施してきたが、特に S ボランティアの参加者が増えてきている。対象家庭は、様々な理由でライフスタイルの変化に孤独感や困難さを感じている家庭だが、今年度は「シングルで子育てをしている」方の参加も増え、そのニーズがまだまだあると思われたので「シングルで子育てをしているあなたへ」というカードを作成した。毎回、ファシリテーターも同席のもと、メンバーは打ち解けて話をしていき、子ども同士の関係性もできてきている。

(イ) 横浜市港北区とその近隣区における放課後等デイサービスに関する紹介冊子「放デーってなあに？」作成とそれに関わる啓発事業（YS 市庭コミュニティー財団助成金事業）

活動期間は平成 29 年 10 月 1 日から平成 30 年 9 月 30 日。林立する放課後等デイサービスについて、見学や座談会を通して、実際の活動内容、放課後等デイサービスの仕組み等を把握し、障がい児子育て家庭の居場所選びを、家庭だけでなく地域全体でサポートしていけるような手だてとしての冊子「放課後等デイサービスってなあに？」を 3000 部作成。区内の幼稚園、保育所、小学校、学童保育他に無料で配布した。配布は継続して行っている。また啓発活動として①地域ミニフォーラム（山下容子氏）②フォーラム「私たちの共生」（毎日新聞社編集主幹野澤和弘氏）を開催した。同事業遂行にあたっては「ななつから・・・」のメンバーによる多大な協力があつた。

(ウ) 人材育成 子育てと仕事両立体験研修事業「家族シミュレーション」（平成 30 年度 かながわボランティア活動推進基金基金 21 活動補助金事業）

学生・社会人を対象に第三者の家庭での育児体験を実施し、子どもに触れた体験がその後の家族観、就労意識などに及ぼす変化を研究し、若者の育児体験活動が、新たな子育て支援施策となる事業の開発を目指した。法人以外の企業や保育士などアドバイザー 5 名及び、産業能率大学の橋本諭先生ゼミ学生の参画のもと実施した。

事業参加者の価値観の変化を実証した。企業にとって人材育成研修の機会となることを発表する報告会を実施した。

延べ活動回数 15 回／参加企業・団体：4 社・1 団体／体験参加者数 12 名／受入れ家庭 5 家庭／報告会参加者 50 名／報告リーフレット 1000 部制作

(エ) サービス грант KANAGAWA プロボノチャレンジ参画

プロボノワーカーとの協業により、企業との連携の方向性を知ることができた。

5. 地域型保育事業の運営

小規模保育事業 ちいさなたね保育園

(1) 基本データ

| | |
|--------|----------------------|
| ① 対象 | 生後57日から2歳児 |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区師岡町824 第一ネッキビル |
| ③ 開所日時 | 月曜～土曜 7時30分～18時30分 |
| ④ 従業員数 | 13名 |
| ⑤ 事業概要 | 「小規模保育事業A型」 定員19名 |

(2) 報告

1) ちいさなたね保育園の保育の言語化

- ・6月16日の学研の研修に登壇（松原、安江）し、異年齢での散歩について発表する
- ・シルバー人材センターで登壇し、地域との交流について話す
- ・10月27日の懇談会で保護者に向け異年齢保育について話す
- ・毎月の園だよりにて、行事の意味、園が大切にしている事を発信

2) 他事業を理解し連携できる事、手をつなげることを探る

- ・どろっぴとのちょこっと育児
- ・ひろば、cocoしの、まんまーる、どろっぴに常勤職員が研修として参加させていただく

3) 手を取り合う育児

- ・afternoon tane という名でテーマを決め、年4回の懇談会と1回の全体会
- ・おもちゃCafé（9月29日）開催 「劇団たね」の『大きなかぶ』の上演
- ・誕生会はひとりひとりをお祝いし、保護者に絵本を読んでもらう
- ・保護者参加は随時

6. 地域福祉・交流に関する事業

地域福祉・交流スペース COCO しのはら

(1) 基本データ

| | |
|--------|--|
| ① 対象 | 子どもから高齢者まで |
| ② 実施場所 | 横浜市港北区篠原町1077 |
| ③ 開催日時 | 月曜～金曜 9:30～15:00 |
| ④ 従業員数 | 6名 |
| ⑤ 事業概要 | <ul style="list-style-type: none">・日常的な多世代交流の場・横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業通所型の実施・趣味の講座や得意なことを活かせる活動スペース・食事の提供・地域連携及びネットワークの強化 |

(2) 報告

1) 地域の中で、世代を問わず様々な人が出会い・交流・活動ができる「みんなの居場所」となる場をつくる。講座やプレミアムナイトを通して地域の方が講師として活動している。夏休みに小学生対象の「しのはら地域子ども塾」を開催。

2) 畑作りやお料理なども含む「食」を通して新しい出会いが生まれ、多世代が集まれるしかけをつくっている。ランチ、カフェがあることで多世代が利用し、子どもを通してそこにいる利用者同士が会話をし交流できるきっかけとなった。

3) さまざまな役割を担うことで、誰もがその人らしくいきいきと過ごすと同時に、健康づくりや介護予防プログラム取り入れる。横浜市介護予防・日常生活支援総合事業の助成から1年半経過。篠原地域ケアプラザと連携し、体操やエンディングノートの講座を開催、地域の懇話会も開催した。料理や配膳、片付け、利用者との会話、お庭整備など地域の方が無理なく活躍することができた。脳トレ健康麻雀は利用者の中から有志が集まり、継続的に行われている。

4) 多世代で入園前の子どもたちを見守る。

カフェの利用、講座参加に来られた方が子どもたちに声をかけたり、見守っている様子が温かい雰囲気である。子どもたちが安心して過ごせる居場所になっている。

7. 上記の事業を行うために必要な一切の活動

(1) 基本データ

| | |
|--------|---|
| ① 実施場所 | 横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103 |
| ② 業務時間 | 月曜～金曜 9:00～17:30 |
| ③ 従業員数 | 4 名 |
| ④ 事業概要 | 法人運営に関わる一切の会議開催 法人内部研修開催 会員登録、寄付金協力の手続き及び管理 |

(2) 報告

1) 法人運営に関わる一切の会議開催

理事会（年 3 回） 全体会（年 2 回）
運営連絡会・会計チェック（毎月開催）
会計チェック 毎月開催

2) 法人内部研修開催

初任者研修（全 3 回）
法人全体研修

3) 会員登録、寄付金協力の手続き及び管理

会員登録手続き及び管理（メーリングリスト等による法人情報の発信）
指定NPO法人として必要な手続き及び管理業務（寄付金協力者の管理、寄付金受領書の発行手続き）
特定非営利活動促進第 44 条第 1 項に規定する認定特定非営利活動法人の申請手続き。